

卒業生からのメッセージ



社会福祉学科 社会福祉専攻

2007年卒 吉川 純平

<義明苑 地域包括支援センター 社会福祉士>

在学中の思い出は？

私は平成19年に卒業し、社会人7年目です。在学中は社会福祉専攻で学びました。サークルはバドミントンで、夏の合宿は楽しみの一つでした。今の奥さんともそこで出会ったんです。今でも活動しているのかなあと考えたりすることもあります。カフェテリアや芝生での、仲間同士の会話や食事も良い思い出です。ソースカツ丼とカツカレーが好物でした。笑い声が飛び交う憩いの場として最適な場所ですね。そして、大学生活の集大成は国家試験の勉強でした。今勤めている義明苑は社会福祉士を重宝してくれたので、就職前の夏休み頃から徐々に勉強しました。長い時間勉強するのが苦手で、テレビを見ている時や、お風呂、トイレでも過去問を手にしてたのを覚えています。合格率日本一の大学だったので、みんなで刺激しあって、なんとか合格。最後に笑えて良い大学生活を過ごせたと思います。

仕事のやりがいとは？

私は介護職からスタートして、現在は地域包括支援センターという地域の相談窓口で、社会福祉士として働いています。私は仕事を物々交換だと考えています。お給料をもらっているのだから、しっかり仕事をしろという言葉を目にしますが、福祉業界は低賃金で有名です。しかし、そこを補うのがやりがいになります。自分が経験したことのない、未知の領域を生きてきた高齢者との関わりは、自分の価値観や常識をことごとく打ち破って、自分の人格を磨いてくれます。



人の役に立てるという気持ちはもちろんですが、何より自分の人生の糧になるものがたくさんあり、楽しさや少しの恐さも感じながらの仕事は、かけがえのない財産です。

義明苑は若手に多くチャンスを与えます。成長過程で身に付けたものを発揮できる場が多くあるということです。自分の努力が報われる喜びも、この職場にいる理由の一つです。



後輩へのメッセージ

皆さんが現在、学んでいる対話重視の授業やレポートは、全く無駄になっていません。仕事をする上で、他の人とは違った視点を無意識のうちに身に付けています。

義明苑には高卒や専門卒の職員が多いですが、その方々とは違った学び方をしてきた皆さんは、とても貴重な人材です。これは学歴の問題ではなく感性が違うという意味です。多種多様な生き方をしてきた高齢者に関わる職種だからこそ、色々な視点から物事を考えられる皆さんの力が必要になってきます。

義明苑は今後、地域で1番を目指し、徐々に市外、県外へもPRしていこうという意欲を持った前向きな施設です。4年間の大学生活で学んだものを活かす場がたくさんあります。多くのチャンスを与える環境の中で、生き生きと自分の才能を発揮してみませんか？『笑顔の実現』がうちの理念です。一緒に働ける仲間になれることを楽しみにしています。

卒業生からのメッセージ



社会福祉学科 社会福祉専攻

2005年卒 池山 洋樹

〈義明苑デイサービスセンター相生 生活相談員〉

仕事を選んだきっかけは？

私は大学を卒業し、早いもので8年が経過しました。学生時代を思い起こすと、まだ福祉について無知な私がいたような気がします。大学に入学した理由は『人の役に立ちたい』というただそれだけ。将来的には児童関係の仕事に就ければと考えていた自分がいました。しかし大学1年の実習で在宅介護支援センターに行ったことが私の高齢者施設で働くきっかけとなりました。

実習では色々な高齢者宅へ訪問し、そこでたわいもない話をしながら生活を支えようとしているソーシャルワーカーさんの存在、高齢者の生活の大変さを知り、『私も将来は高齢者の生活を支えられる人になりたい』という想いが生まれ、それから高齢者福祉で働く意思を固めていきました。

今までの仕事について

現在の施設で内定を受けた時から社会福祉士の資格は絶対に取得し、最初はその資格が生かせなくても介護の現場で色々な経験を積んでいこうと思うようになりました。それから社会福祉士を卒業と同時に取得しましたが、まだ社会福祉士の名が世間一般に知られることが少なかったため、私が入職しても『介護の資格がない』ということでもとても苦労したことを覚えています。入職当初は介護職員として配属をされましたが、介護の奥深さを理解すること、利用者満足のための技術等は経験がないために、同僚と比較しても全然出来ていない自分に腹が立つこともありました。少しずつ地道に経験を積んでいくことで色々なものを吸収し、自分なりの『介護とは』ということが確立していくことが出来ました。

その後行政から地域包括支援センターの委託を施設が受け、私が社会福祉士の資格を取得しているということもあり、地域包括支援センターの社会福祉士として配属されることになりました。そこで初めて社会福祉士としてのノウハウを活かすことが出来る様になりましたが、それよりも介護の現場で働いていた経験がとても活かされる場でもありました。実際に社会福祉士としての専門性は発揮できるものの、介護から



は高齢者を切り離すことが出来ないため、私としては介護を経験したことで幅広い対応が出来ていたのではないかと感じています。

そして現在はデイサービスの生活相談員をしています。介護職員の経験、地域包括支援センター社会福祉士の経験が現在の立場ではフルに発揮できていると自分自身感じています。介護の奥深さは常に追求し、社会福祉士としての高齢者の生活を支える考え方、ソーシャルワークやコミュニティワークの考え方も現在の生活相談員という立場では考えていかなければならないところです。そのため苦労することはありますが、日々充実した仕事ができていると感じています。

後輩へのメッセージ

私の経験からお話できることは、現在就職活動で色々と悩んでいる学生の皆さんには、高齢者施設も自分を活かせる職場ではないかと考えの1つに入れていただければということです。これから高齢者人口は更に増えます。支えていくのは私たちではないでしょうか？現在のこの世の中があるのは、終戦後の厳しい時代を生き抜いた現在の高齢者がいたからだとは私は思います。福祉と全く違う職業もあるため一概に良い悪いはありませんが、今の高齢者福祉を充実させることができれば、いずれは自分たちに活かされるとも考えられますので、内定がまだの方は一度高齢者施設に見学でも行ってみるのも良いかもしれません。



おわりに、国家試験もあるかと思いますが、学生生活も今しかありませんので、楽しく充実した学生生活を過ごしてください！！